

「難民・移民キリスト者フォーラム 2024」を大阪で開催

～全国の仲間と共に課題を分かち合う～

6月7日(金)夜、在日韓国基督教会館(KCC)を会場に、対面とオンラインによる「難民・移民キリスト者フォーラム」を開催しました。関西外キ連や関西代表者会議のほか、翌日から始まる「移住者と連帯する全国ネットワーク」の全国ワークショップに参加するため来阪した仲間を含め会場参加が35人、また全国各地からのオンライン参加が90人の合計125人が集まり、外国にルーツをもつ仲間たちの現状と日本の制度の問題点について、共に課題を分かち合い、仲間たちの声を聴き合うひとときとなりました。

ちょうど1年前の2023年6月に広島で開催した「キリスト者フォーラム」では、難民申請者や仮放免者らを追放しようとする「改悪」入管難民法が国会で成立した日であり、私たちは急きょ「入管難民法の改悪に抗議し、難民・移民と共に生きる教会共同声明」を作成し、教派・団体・教区・個教会に賛同を呼びかけました。そして、その教会共同声明が、この「難民・移民なかまのいのちの緊急基金」の起点となりました。

それから1年後、その「改悪」入管難民法(2023年改定入管法)が6月10日から実施され、また

国会では新たな「改悪」入管難民法が審議中……という緊迫した状況の中で、今年の「キリスト者フォーラム」が開かれました。



基調報告では山岸素子さん(カトリック難民移住移動者委員会)から、2021年および2023年の入管法改定案の廃案と成立までの経緯を振り返りながら、2023年6月に成立してしまった改定入管難民法の問題点や、2024年に新たにすすめられている技能実習制度の廃止と育成就労制度、および永住資格取り消し制度についての多くの問題点が指摘されました。外国人を管理し「労働力」として使い捨てる政策ではなく、定住・永住する移民として社会で受け入れるための包括的な移民政策と真の共生社会を求めて、私たちに何ができるのかが問われました。

また、佐藤信行さん(外キ協事務局)からは、2024年国会での審議状況や、「難民・移民なかまのいのちの緊急基金」の取り組みについての報告や、教会こそが多文化共生の「信仰共同体」となるのかという問いが投げかけられました。そし

て「移民社会」日本の中で、私たちが取り組むべき課題がなにかについて熱く語られました。

そのあと、支援団体の報告と難民申請者・仮放免者の証言では、ビスカルド篤子さん(カトリック大阪高松大司教区社会活動センターシナピス)とそしてマキンサンサンアウンさん(アトゥトゥミャンマー)から支援現場での関わりについて、また難民申請者の A さんからは、難民・移民の当事者としての経験をお話いただきました。また、河内理恵さんと田村義明さんからは、「基金運営チーム」の一員として関わる中で感じたこと、経験したことについてもお話していただきました。

続いて、会場とオンラインでそれぞれ小グループに分かれ、自己紹介を交えながらフォーラムで聞いた証言や現状・課題について感想を共有しながら、その応答として「わたしができること」と、「わたしたちができること」について語り合う時間をもち、次のような感想やコメントがありました。

- ・「自分は外国人だから声を出すことができない」という言葉が一番心に残った。だからこそ、私が何かしなくてはと思った。
- ・入管法はどんどん悪化しているが、日本人の立場では他人事になってしまいがち。国籍にとらわれず、共に生きる仲間として、「共に生きる」ことを祈り続けることや、そのために、互いの体験を聞き合い、共にいる仲間を増やしていくことが必要。
- ・「なかまのいのちの緊急基金」のことを教会で呼びかけたとき、最初は反応が鈍かった。しかし、ある技能実習生が教会に来られたことをきっかけにして、1人また1人と献金してくれる方が



おこされていった。出会いの力を感じた。出会っていきいたいし、出会いの場を作っていきたいと思う。

- ・長年聞いてきたはずの課題の深刻さを改めて実感した。たくさんの課題があり、どれも重大なもの。緩やかに連帯してアクションしていきたい。
- ・課題を知っていても、難民申請者や仮放免者を支える方法がわからなかった。「なかまのいのちの緊急基金」を通して、具体的なアクションを起こすことができ感謝だった。



フォーラム終了後の夜9時から、2021年2月にミャンマーでの軍事クーデターによってミャンマー国内外で避難生活を余儀なくされる人たちのことを覚えて続けられている「ミャンマーを覚える祈り会」に参加しました。3年以上も続けられている「アトゥトゥミャンマー」の、顔と顔が見える支援にも参加し、改めて私たちができること、なすべきことがまだまだあるのだと気付かされました。



これまでの緊急基金での出会いや学びを通して、さらに祈りつつ行動していくこと、私たちに何ができるかを問い、そして動き続けることの大切さを分かち合いました。また、このフォーラムに参加された一人一人の想いや祈りが、緊急基金を1年続けるための原動力となったことを再確認し、次の働きへと歩み出すチカラを与えられる時間となりました。ご参加くださったみなさま、祈りに覚えてくださったみなさまに、心から感謝いたします。

●森小百合（基金運営チーム）



難民・移民なかまのいのちの緊急基金 収支中間報告

(2023年8月6日～2024年6月30日)

＜収入の部＞			＜支出の部＞		
項目	金額	備考	項目	金額	備考
献金	9,788,134	教会・団体・個人	第一期支援金	4,890,000	@30,000×163人
助成金	500,000	NCC協働基金	第二期支援金	3,180,000	@30,000×106人
			第三期支援金	1,320,000	@30,000×44人
			通信費	96,781	送料、振込手数料ほか
			事務費	168,595	チラシ印刷代ほか
			人件費	428,750	8月～2024年4月
			2・18集会経費	27,530	謝礼、会場費ほか
			フォーラム集会経費	67,370	謝礼、zoom 使用料ほか
合計	10,288,134		合計	10,179,026	

収支残高: 109,108 円

「難民いのちの緊急基金」に献金を送ってくださった教会・個人

(2023年8月6日～2024年6月30日)

外キ協／幼きイエス会（ニコラ・バレ）／横浜桐畑教会／日独コースミッション 2023／イエズス会 社会司牧センター／浦安教会／日本キリスト教協議会女性委員会／日本基督教団九州教区北九州地区ヤスクニ人権委員会／日本キリスト教団巢鴨ときわ教会／日本自由メソヂスト教団／日本聖公会東京教区人権委員会／キリスト者平和ネット／日本基督教団四街道教会／新発寒教会／カトリック大分教区カリタス／日本聖公会神田キリスト教会／日本基督教団三次教会／日本キリスト教婦人矯風会新潟／日本カトリック難民移住移動者委員会／宮古聖ヤコブ教会／日本福音ルーテル函館教会／日本キリスト教会北海道中区ヤスクニ・社会問題委員会／蒔田教会／日本基督改革派名古屋教会／日本キリスト教会夕張伝道所／日本バプテスト連盟大宮バプテスト教会／さよなら玄海原発の会・久留米／ヒロシマとメノナイトのともに集い合うセミナー／KMJ チャリティー／北海道外キ連／NCC 人権委員会参加者／日本聖公会仙台基督教会／日本福音ルーテルむさしの教会チャリティーコンサート／日本バプテスト同盟野並キリスト教会／日本バプテスト連盟大分キリスト教会／日本バプテスト同盟寝屋川キリスト教会／日本福音ルーテル八王子教会／恵の丘長崎原爆ホーム／日本福音ルーテル宇部教会／日本キリスト教団月寒教会／日本福音ルーテル藤が丘教会／日本キリスト教会多摩地域教会／カトリック・カルメル修道会／日本バプテスト連盟日本バプテストキリスト教目ヶ丘教会／日本聖公会東京教区聖マルコ教会／日本キリスト教会柏木教会／福岡女学院中学校／日ノ本学園高等学校／カナダ合同教会（UCC）／日本基督教団豊中教会／日本バプテスト連盟日本バプテスト大阪教会／日本バプテスト同盟関東学院教会／日本聖公会鹿児島復活教会／日本友会東京月会有志／日本キリスト教団下落合教会／下落合みどり幼稚園／日本福音ルーテル帯広教会／日本バプテスト同盟金沢文庫キリスト教会 CS／日本基督教団旭川豊岡教会／日本バプテスト連盟神戸バプテスト教会／日本バプテスト同盟駒込平和教会／日本バプテスト同盟瀬戸田バプテスト教会／日本基督教団横浜上原教会／日本バプテスト同盟高槻バプテスト教会／西南学院中学校高等学校後援会母の会／日本バプテスト同盟深川教会／日本基督教団市川三本松教会／日本バプテスト連盟日本バプテスト静岡キリスト教会／日本基督教団播州赤穂教会／日本基督教団千葉教会／日本基督教団新潟教会／日本基督教団倉敷教会／日本基督教団廿日市教会／日本基督教団宇和島中町教会／日本バプテスト連盟八王子めじろ台バプテスト教会／西南学院中学校・高等学校／日本バプテスト同盟日本バプテスト厚木教会／外キ協全国協議会参加者有志／日本バプテスト連盟大分キリスト教会／日本基督教団阿倍野教会／日本バプテスト連盟徳島キリスト教会／学習会／アーメンアクション／日本基督教団原宿教会／日本バプテスト連盟姪浜バプテスト教会青年会／日本キリスト教団福知山教会／日本バプテスト連盟長住バプテスト教会／日本カトリック管区長協議会・日本女子修道会総長管区長会／在日大韓基督教会小倉教会／日本基督教団小倉日明教会／奈良アーメンアクション／日本基督教団片町西教会／日本バプテスト連盟北大阪教会／在日大韓基督教会布施教会／アーメンアクション（北海道）／2・18集会会場カンパ／マリアの宣教者フランシスコ修道会東京第三修道院／新潟ヘルプの会／日本基督教団室町教会／駒込ネイルアクション／日本基督教団尼崎教会／矯風会長岡グループ／日本バプテスト同盟／日本キリスト教団徳島北教会／日本バプテスト女性連合／日本バプテスト連盟靖国神社問題特別委員会／日本バプテスト連盟神戸西バプテスト教会／日本バプテスト連盟岡山バプテスト教会有志／サレシアン・シスターズ世田谷修道院／日本基督教団東金教会／浅田カトリック教会／日本基督教団岩見沢教会／多摩ニュータウンバプテスト教会／日本基督教団南山教会／日本基督教団東村山教会／ノートルダム教育修道会女会小竹藪町修道院／キリスト者フォーラム会場カンパ／名古屋キリスト教青年会／日本バプテスト同盟全国女性会／日本バプテスト同盟平バプテスト教会／日本バプテスト連盟関西地方教会連合社会委員会／ほか3団体（匿名）／栗田英昭／岡田幸助／佐々木国夫／奈良いずみ／高橋礼子／井田泉／金成元／八木淳司／比企敦子／岸まち子／原科浩／秋葉正二／竹内正幸／今給黎眞弓／田村義明／大倉一美／大曲由起子／岡田富美子／松橋敦子／北村恵子／石塚多美子／大内絵美／小谷野聖枝／薄井遥／秋山成子／日笠山吉之／山内英子／渡邊さゆり／吉田雅尚／李省展／濱野敏子／渡辺輝夫／齊木登茂子／藤田美土里／横山陽子／潮江亜紀子／中村登紀子／三好祐輝／日高門／秋山道子／李明生／デイビット マッキントッシュ／河内理恵／洪秀任／金長壽／星山京子／飛田雄一／岡田薫／吉高叶／森山信三／山本二三子／古賀清敬／丹野信子／長谷川洋一／松村光司／藤田誠／中村証二／吉田絵理子／真下弥生／松本千恵／高橋愛／張征峰／細井留美／大西晴子／小池善／佐藤信行／川内裕子／斎藤幸義／森小百合／三吉小祈／古田真帆／飯高京子／元百合子／土井しのぶ／クボコウヘイ／石谷恵之／上西創造／長尾有起／フクイキエコ／虎川清子／川野安子／野副めぐみ／市川佐代子／李清一／本間勝／杉山佳奈子／鈴木律代

／高本由美／刀祢館美也子／高谷幸／柴田朋子／鎌田治子／斎藤成二／山岸素子／栗田隆子／富田正樹／日高賢／松中みどり／安田真由子／松坂克世／竹内すなお／申ヨソフ／須藤伊知郎／野村篤子／高橋周也／前田以智子／樋口洋一／宮尾素子／中川弥生／白井捷子／人見富美子／國分美生／澁谷信男／陣内大蔵／大嶋果織／藤森春江／カジユキコ／ヒガシダサチコ／小河義伸／鈴木寛／米山久子／吉高路／田辺洋子／シバタカオリ／かくのぶえ／加藤優衣／中村一義／上原恵／北村加奈子／本多恵子／米澤澄子／関伸子／キタヤマジュンコ／海老澤浩／松浦謙／青木武生／石原昌子／岡村直子／内藤文子／ほか 50 名（匿名）

※複数回献金者のお名前の掲載を 1 回とさせていただきます。

※献金を送ってくれた教会・修道会・団体、そして個人は延べ 140 団体 + 260 人

献金と助成金の合計額は 10,288,134 円、私たちの仲間である 難民申請者・仮放免者ら 313 人を支援することができました。感謝！

「緊急基金」は 7 月で完了し、 10 月から 3 年プロジェクトとして「難民いのち基金」スタートします。

- ◆2023 年 6 月に改定入管法が国会で可決され、難民申請者・仮放免者らが窮地に追い込まれていることに危機感を覚え憂慮した私たちは、同年 8 月、「難民・移民なかまのいのちの緊急基金」を設立しました。
- ◆この 1 年間で献金の総額は 10,288,134 円となり（6 月末現在）、それに助成金 50 万円を加えて基金とし、そこから難民申請者・仮放免者ら 313 人に対して一人 3 万円ずつ支援することができました。
- ◆これまで「難民・移民フェス」（2022 年～東京・埼玉で開催）などで協働してきた支援団体から支援申請書を出してもらったほか、基金運営委員が当事者と面接などして支援金を渡していき、支援金は当事者の当面の生活費・医療費・就学費等に活用されました。
- ◆こうした活動と並行して月 1 回通信『ここのかレター』を発行し、難民申請者・仮放免者らの緊迫する生活状況、差別的な制度の狭間で窮地に陥る当事者のリアルな声、さらにひっ迫する支援現場の声などを、献金を送ってくれた教会・修道会・団体・個人、そして日本社会に発信していきました。また毎月九日には祈祷会をもち、全国の仲間と祈りをあわせることができました。2024 年 2 月と 6 月には対面とオンラインで集会を開催し、当事者と支援者、寄付者、のべ 300 人以上が全国から参加し、基金の活動状況と今後の課題について率直に話し合うことができました。
- ◆この 1 年間、献金を送ってくださった教会・修道会・団体は 140、個人は 260 人に及びます。このことは、日本のあまりにも過酷な難民認定・入管行政、それを結果的に容認する日本の政治、それを黙認してしまう日本社会に対して、多くのキリスト者がこれではいけないと自分のこととして考えた表れです。また、キリスト者としてのいのちが一番尊いことを改めて教えられ、与えられたいのちを分け合う喜びを、献金という形で表すことができたのです。
- ◆このようにして基金の活動を通じて、これまで関心のなかった人びともこの課題を知る機会ができ、一人一人の小さな行動が大きな支援を実現させることを体現することができたと言えます。また、このかつてない広がり、「外キ協」という 38 年間積み上げてきた大きな枠組みがあってこそなされましたが、何よりも基金の意義を感じた多くの働き人の尽力によるものだと言えます。感謝するばかりです。
- ◆9 月には『難民・移民なかまのいのちの緊急基金（2023 年 8 月～24 年 7 月）報告書』を、皆さんのもとにお届けします。そして 10 月からは、3 年プロジェクトとして「難民・移民なかまのいのちの協働基金」をスタートさせます。